

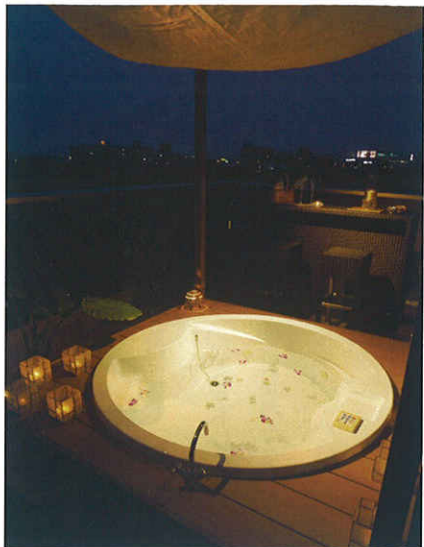
屋上に出現する、極上のリゾート空間。

木造戸建て住宅に屋上庭園をつくる「プラスワンリビング」が、さらなる進化を遂げた。扉を開けた先に広がるのは、極上のリゾート空間だ。

殿村誠士・写真 Photographs by Seiji Tonomura 前かおり・スタイリング styling by Kaori Mae



プラスワンリビング[PLAN 2012]より、「スイートルーム」の一例。これからの季節なら、星空を愛でながらのジェットバス、夜風にあたりながらの一杯……。屋上に広がるラグジュアリー空間ならではの楽しみだ。



円形のバスタブをもつジェットバス。ジェットバスのパイオニア、ジャクージ社ゆかりのメーカーが日本用にカスタマイズした製品を採用。心地よい時間が流れる。



屋上にプラスワンリビングを配した木造戸建て住宅、プラスワンリビングハウス。屋上庭園はもちろん、性能、デザインともに妥協しない住宅設備を標準搭載している。



innovation 社長
岡崎富夢 Tom Okazaki

●プラスワンリビングの仕掛け人。東邦レオで屋上緑化事業や新規事業を手がける事業本部長を務めたのち、プラスワンリビング事業に特化した子会社[innovation]を起業。

2010年に登場した、木造戸建て住宅向け屋上庭園「プラスワンリビング」。それまで不向きとされてきた、木造住宅への屋上設置を、屋根と同程度の価格で実現した革新的プランだ。六本木ヒルズやOSAKASTATION CITYなどへの技術および資材の提供実績と、屋上緑化・人工地盤緑化の分野で20年以上の実績をもつ東邦レオが母体になり、木造住宅でも安心して採用できる屋上庭園をつくりあげた。

経験と実績に裏打ちされた、隙のない屋上庭園。

一番気になる防水工法には、金属板の屋根と同じ「金属防水」を採用。塗りの物の防水と異なり建物と独立した構造のため、防水事故の致命的な原因となる木造特有の下地の動きによる影響を受けにくい。そもそも金属であるため植物の根に強く、屋上緑化にも向いている。また、屋上庭園そのものが外気や太陽熱・紫外線から、金属防水を守るため劣化しにくいメリットも。今年5月からはさらに進化した「PLAN 2012」の提供がスタートしている。自宅の屋上に広がる「世界でいちばん近いリゾート」をテーマに、全5タイプを用意。すべてのタイプに、防水から床材、屋外専用家具など屋上庭園に必要なすべてがパッケージ化さ

れたセットだ。事業全体を統括する岡崎富夢さんは、「自分がほしいと思えるアイテムだけを揃えた」と胸を張る。フラッグシップとなる「スイートルーム」タイプでは、ゆったりと寛げるコーナーソファ、パーカウンターにアイベッド、そしてリラクゼーションに欠かせないジェットバスが出迎えてくれる。たとえば家具類は屋外での耐久性にすぐれた素材を採用し、パーカウンターは屋上の立ち上がり壁を越えない高さにするなど、屋上で使用するための配慮が行き届いた設備が揃う。完成したその日から、屋上が極上のリゾート空間へと姿を変えるのだ。

プラスワンリビングは、施工後のアップグレードにも対応。最もシンプルなベーシックタイプでも屋上庭園をもつ喜びを体験してみるのがいい。さらに、戸建て住宅に最初からプラスワンリビングを盛り込んだ「プラスワンリビングハウス」も登場。屋上庭園だけでなく、妥協なきハイグレードな性能と住宅設備を備えた、実にコストパフォーマンスの高い住宅に仕上がっている。